



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 伊藤 洋

TEL 03-3293-3420

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	79,229	2.3	13,711	17.5	14,288	15.6	9,262	28.2
24年3月期第3四半期	77,413	2.1	11,668	3.1	12,358	4.3	7,227	△4.1

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 9,492百万円 (31.2%) 24年3月期第3四半期 7,235百万円 (△0.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	123.97	—
24年3月期第3四半期	96.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	152,645	124,326	81.4
24年3月期	145,673	118,201	81.1

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 124,326百万円 24年3月期 118,201百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	10.00	—	35.00	45.00
25年3月期	—	10.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	40.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	107,800	4.4	17,400	20.3	18,000	17.8	11,800	27.8	157.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) キョーリン製薬グループ工場株式会社、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものです。詳細は、【添付資料】3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	74,947,628 株	24年3月期	74,947,628 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	230,818 株	24年3月期	228,377 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	74,717,809 株	24年3月期3Q	74,724,770 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における国内医薬品業界は、本年度4月に実施されました薬価基準の改定（業界平均：6.0%、杏林製薬：6%台）等、薬剤費の抑制を目的とした諸施策により経営環境は厳しさを増しました。ヘルスケア事業では、消費の低迷の影響を受ける市場の中で企業間の競争は激化しました。

このような状況下、当社グループは、中期経営計画「HOPE100-ステージ1-（平成22年度～平成27年度）」に基づき、事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデル（PCモデル）への取り組み促進」「ヘルスケア新規事業の拡充と育成」に積極的に取り組み、持続成長とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

売上面では、ヘルスケア事業の売上は減少したものの、医薬品事業におきまして既存事業の売上が前年度を上回る実績で推移したことに加え、平成24年10月1日より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場㈱の売上が寄与し、売上高は792億29百万円と前年同期比18億15百万円（前年同期比2.3%増）の増収となりました。

利益面では、薬価改定の影響等により原価率が1.9ポイント上昇し売上総利益は前年同期に対して3億12百万円減となりましたが、販売費及び一般管理費は研究開発費の減少により、前年同期に対し23億56百万円減少したため、営業利益は137億11百万円（前年同期比17.5%増）となりました。また、経常利益は142億88百万円（前年同期比15.6%増）、当四半期純利益につきましても、92億62百万円（前年同期比28.2%増）と増益となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績

売上高	792億29百万円（前年同期比	2.3%増）
営業利益	137億11百万円（前年同期比	17.5%増）
経常利益	142億88百万円（前年同期比	15.6%増）
当四半期純利益	92億62百万円（前年同期比	28.2%増）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

〔国内新医薬品〕

本年度4月に実施された薬価改定の影響等もありましたが、平成24年10月1日より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場㈱が寄与し、売上高は650億63百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

営業部門では、呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科を中心とする特定領域の医師、医療機関に営業活動を重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略の推進と更なる強化により主力製品の普及の最大化に努めました。主力製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が前年を上回る実績で推移しましたが、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」等は前年を下回りました。

生産部門では、現中期経営計画において「高品質の製品を安定的に低コストで供給する生産体制の確立」を重点課題の1つとしております。その具体的な取り組みとして、キョーリン製薬グループ工場㈱を設立し、MSD㈱が所有する滋賀工場の資産を譲り受けると共に、同工場で製造中のMSD㈱製品の生産を受託する契約を平成24年5月に締結し、キョーリン製薬グループ工場㈱として平成24年10月1日より医薬品の製造を主とする事業を開始しました。今後も高品質の製品を安定的に供給できる体制の構築を目指します。

〔海外新医薬品〕

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン（導出先：米国アラガン社）」に関連する収入が前年を上回り、売上高は16億91百万円（前年同期比18.0%増）となりました。

なお、杏林製薬㈱はガルデルマS.A.（本社：スイス）と平成24年10月に医療用外用抗真菌剤「ベキロンクリーム」に係わる資産譲渡契約を締結し、同剤について杏林製薬㈱が有する全ての資産を平成25年2月1日に譲渡いたしました。

〔後発医薬品〕

本年度より導入された後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への販売が増えると共に他社からの受託生産による売上も増加し、売上高は77億07百万円（前年同期比19.5%増）となりました。

〔一般用医薬品他〕

哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」などの売上が増加し、売上高は33億82百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

この結果、当セグメントの売上高は778億45百万円（前年同期比3.1%増）となり、営業利益は138億03百万円（前年同期比20.4%増）となりました。

②ヘルスケア事業

企業間競争が激化する環境の中で、スキンケア製品を取り扱うドクタープログラム㈱の売上が前年を下回る実績となりました。この結果、当セグメントの売上高は13億83百万円（前年同期比27.9%減）となり、営業損失は1億89百万円（前年同期の営業利益は14百万円）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

当社グループでは、自社創薬、導入品の開発、既存品のライフサイクルマネジメント（新効能・効果取得、剤型追加）により特定領域において魅力ある製品パイプラインの構築に取り組んでいます。

当第3四半期連結累計期間における国内開発の状況としましては、慢性閉塞性肺疾患治療薬（配合剤）

「KRP-AB1102F」のPhⅡ臨床試験を平成24年5月より、慢性閉塞性肺疾患治療薬（単剤）「KRP-AB1102」のPhⅢ臨床試験を平成24年9月より、ニューキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977Y」のPhⅠ臨床試験を平成24年7月よりそれぞれ開始し、気管支喘息治療剤「KRP-108」は平成24年9月に製造販売承認申請いたしました。また、潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ」は、平成24年8月に新用法・用量（1日1回投与）の承認を取得すると共に、新剤型である坐剤を平成24年8月に製造販売承認申請いたしました。千寿製薬㈱へ導出している緑内障治療薬「アイファガン（点眼液）」が平成24年5月に同社より新発売されました。

なお、糖尿病治療剤「KRP-104」につきましては、開発の重点領域、優先度、競合状況等を総合的に勘案し、事業戦略上の観点から開発を中止し、第2四半期決算発表時に公表しております。

自社創薬活動におきましては研究領域を呼吸器・泌尿器・感染症に重点化し、効率的かつ効果的な新薬の創製に努めております。

以上の結果、研究開発費は前年同期に対して26億35百万円減少し、75億51百万円（前年同期比25.9%減）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末は、流動資産が現金及び預金、有価証券、商品及び製品、原材料及び貯蔵品の増加、受取手形及び売掛金の減少等により76億55百万円増加しました。また、固定資産は有形固定資産の増加、投資有価証券、繰延税金資産の減少等により6億82百万円減少しました。その結果、資産は前連結会計年度末と比較して69億72百万円増加し、1,526億45百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、その他（流動負債）のうち預り金の増加、短期借入金、賞与引当金、退職給付引当金の減少等により、前連結会計年度末と比較して8億47百万円増加し、283億19百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加により、前連結会計年度末と比較して61億25百万円増加し、1,243億26百万円となりました。

この結果、自己資本比率は81.4%となり、前連結会計年度末より0.3ポイント増加いたしました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年11月7日に公表しました下記の（通期）連結業績予想につきましては現段階では変更はいたしません。

売上高	1,078億円（前年同期比	4.4%増）
営業利益	174億円（前年同期比	20.3%増）
経常利益	180億円（前年同期比	17.8%増）
当期純利益	118億円（前年同期比	27.8%増）

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社の連結子会社であるキョーリン製薬グループ工場株式会社は、平成24年9月30日に増資を実施し、新たに特定子会社に該当する事となりました。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる当第3四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,615	22,624
受取手形及び売掛金	45,067	43,779
有価証券	7,372	11,167
商品及び製品	11,016	11,641
仕掛品	632	715
原材料及び貯蔵品	9,089	9,683
繰延税金資産	2,340	2,068
その他	2,774	5,876
貸倒引当金	△58	△51
流動資産合計	99,850	107,506
固定資産		
有形固定資産	14,544	17,992
無形固定資産		
のれん	192	96
その他	653	797
無形固定資産合計	846	893
投資その他の資産		
投資有価証券	26,040	22,506
繰延税金資産	3,144	2,418
その他	1,667	1,459
貸倒引当金	△421	△130
投資その他の資産合計	30,431	26,253
固定資産合計	45,822	45,139
資産合計	145,673	152,645

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,043	11,989
短期借入金	3,159	1,609
未払法人税等	2,111	1,646
賞与引当金	3,110	1,725
返品調整引当金	52	42
ポイント引当金	65	48
その他	5,842	8,076
流動負債合計	23,385	25,139
固定負債		
長期借入金	316	209
退職給付引当金	2,949	2,201
役員退職慰労引当金	32	31
その他	788	736
固定負債合計	4,086	3,179
負債合計	27,471	28,319
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	112,797	118,697
自己株式	△318	△322
株主資本合計	117,931	123,827
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	537	769
為替換算調整勘定	△267	△269
その他の包括利益累計額合計	269	499
純資産合計	118,201	124,326
負債純資産合計	145,673	152,645

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	77,413	79,229
売上原価	27,431	29,560
売上総利益	49,982	49,669
販売費及び一般管理費	38,314	35,958
営業利益	11,668	13,711
営業外収益		
受取利息	141	83
受取配当金	163	203
受取賃貸料	201	201
持分法による投資利益	29	19
その他	213	131
営業外収益合計	749	640
営業外費用		
支払利息	36	34
投資事業組合損失	22	28
その他	0	0
営業外費用合計	59	63
経常利益	12,358	14,288
特別利益		
固定資産売却益	21	2
投資有価証券売却益	1	17
特別利益合計	22	20
特別損失		
固定資産除売却損	13	25
投資有価証券評価損	7	—
ゴルフ会員権評価損	0	—
特別損失合計	21	25
税金等調整前四半期純利益	12,358	14,282
法人税、住民税及び事業税	3,991	4,149
法人税等調整額	1,140	870
法人税等合計	5,131	5,020
少数株主損益調整前四半期純利益	7,227	9,262
四半期純利益	7,227	9,262

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,227	9,262
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54	229
為替換算調整勘定	△43	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	2
その他の包括利益合計	8	229
四半期包括利益	7,235	9,492
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,235	9,492
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	75,495	1,918	77,413	—	77,413
セグメント間の内部売上高又は 振替高	60	0	61	△61	—
計	75,555	1,919	77,475	△61	77,413
セグメント利益	11,460	14	11,475	192	11,668

(注) 1. セグメント利益の調整額192百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	77,845	1,383	79,229	—	79,229
セグメント間の内部売上高又は 振替高	36	0	37	△37	—
計	77,882	1,384	79,267	△37	79,229
セグメント利益又は損失 (△)	13,803	△189	13,613	97	13,711

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額97百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。